

I. 【解答】

- A (1) nose (2) eye (3) arms (4) thumbs (5) mind (6) feet (7) hearted (8) hand (9) footsteps (10) tongue  
 B (11) developing (12) indirectly (13) benefit C (14) direct (15) Parallel (16) percentage

【解説】

A (1) **poke one's nose into** ～で「～に干渉する、おせっかいをやく」の意味。poke は「突っ込む」の意味。対象の中に「鼻」を突っ込んでいるイメージの表現。「(干渉あるいは詮索のために、自分に関係のないことに) ちょっかいを出したり、口を出したりする」ということ。

(2) **catch one's eye** で「～の注意をひく」の意味。直訳では「人の目を捕える」で、文字どおり視覚的に「目にとまる」場合、人の能力や人柄などが比喩的に「目にとまる」場合の両方に使える。

(3) **with open arms** は「もろ手をあげて、こころから」を意味する。文字どおりの表現。(例) *The new proposal was received with open arms.* 「新しい提案はもろ手を挙げて受け入れられた。」

(4) **thumbs-down** 「反対、拒否」親指だけを立てたこぶしを下に向けて、だめなことを表すジェスチャーからできた表現。反対語は、**thumbs-up** で「賛成、許可」の意味。

(5) **mind O** : 「O を気にする、注意する」

(6) **drag one's feet [heels]** 「足をひきずる」の意味。文字どおりの「足を引きずる」の意味でも「(気が進まずに) のろのろする、ぐずぐずと引き延ばす」の意味でも使う。

(7) **half-hearted** は「気乗りのしない」を意味する形容詞。心が半分しか込められていないイメージの表現。(例) *His half-hearted way of doing his job really makes me angry.* 「彼のいい加減な仕事ぶりは腹が立つ。」

(8) **in hand** は「取りかかって、進行中で」を意味する。(例) *The editor is very busy now. He has several books in hand.*

「あの編集者は今とても忙しいんだよ。進行中の本を何冊も抱えているからね。」

(9) **follow in one's footsteps** は「人の例にならう」を意味する表現。文字どおりには「～が(雪などに) 残した足跡一つ一つに自分の足を入れて行く」という意味。**footsteps** はふつう「足音」で「足跡」は **footprints** と考えるが、この場合のように「足跡」の意味になることもある。

(10) **(civil) tongue** : 「(礼儀正しい) 言葉遣い」この **civil** は **polite** 「礼儀正しい」の意味、**tongue** は「言語: 言葉遣い」。

B (11) 「発展途上国」は **a developing country**。「発展」という動作が進行中なので **developing** を用いる。「先進国」は「発展」の動作が完了しているので **a developed country** と言う。

(12) 「間接的に」は **indirectly**。 **directly** 「直接的に」に否定の意味の接頭辞 **in** をつけたもの。

(13) 「利益」は **benefit**。 **bene** はラテン語で「良い」を表す、**fit** は「行い」を表す。

C (14) 「正比例のグラフは直線になる。反比例のグラフは曲線になる。」「正比例」は **direct proportion**。

(15) 「平行する直線は、どこでも同じ距離だけ離れていて、どれだけ伸びても決して互いに交わらない。」「平行する」は **parallel**。

(16) 「パーセントは、基本量を 100 に取った何かの割合のこと」「パーセント、百分率」は **percentage**。 **per** 「～ごとに」、**cent** 「100」というラテン語に由来する表現。

II. 【解答】

- (1) ② : responsibility (2) ③ : anything (3) ② : myself (4) ⑤ : lack (5) ③ : use

【解説】

(1) *Now that you have turned 20 you have to [take responsibility for what you] do.* **take responsibility for A** で

「A の責任を取る」を意味する。「自分の行動」は「自分がすること」と読み換えて、関係代名詞 **what** を用いて **what**

you do とする。

(2) Can you [tell us anything about the discoveries of] physics in the nineteenth century. 「何か言えますか」の部分には「私たちに何かを言う」と考えて、tell us anything とする。「物理学の発見について」は about the discoveries of physics.

(3) I was [beside myself with joy when my first book] was published. be beside oneself with ~ 「～で我を忘れる」

というイディオムを用いる。

(4) Citizens in big cities [have to endure the lack of] space. 「空間のなさ」を the lack of space と表現し、have to endure 「我慢しなければならない」の目的語として使えばよい。

(5) The Japanese [should make use of compliments] more skillfully. make use of ~ 「～を利用する」という意味のイディオムを用いる。

### III. 【解答】

1. ア : intake ケ : have 2. ウ : not カ : more ク : one-third 3. エ : even オ : peaked キ : significant コ : sake  
4. 訳例下線部参照。

#### 【全訳】

**第1段落** 砂糖。蜂蜜。メープルシロップ。糖蜜。高フルクトースコーンシロップ。これらは全て「添加された糖分」であり、きっとあなたはそれらを食べ過ぎたり、飲み過ぎたりしているだろう。

**第2段落** このように、アメリカ疾病予防管理センターによって発表された最新のレポートには書かれている。全米保険医療統計センターの研究者たちは、2010年度版アメリカ人のための食生活指針に従っているかどうかを理解するために、数千人のアメリカ人から抽出された調査データを研究した。本指針は、添加糖分、脂質、他の「摂るかどうかは自分の裁量に委ねられているカロリー」を、一日で摂取する全カロリーのうちの5%セントから15%の範囲に収めることを推奨している。

**第3段落** 一般的なアメリカ人が15%という限度を超えてしまっていることは不思議なことではないだろう。事実、疾病管理予防センターによると、2005年から2010年までの間、添加糖分からだけでも全カロリーのうちの13%を摂っていたことが新たな報告書からわかっている。糖分は体重が増加する原因となるカロリーでいっぱいからというだけでなく、糖分を含むものが果物、野菜、不可欠な栄養素を含んでいる他の食物に取って代わってしまうから、これは問題なのだ。

**第4段落** 概して、女性(平均239カロリー)より男性(平均335カロリー)のほうが一日につきより多くの糖分を摂

取している、ということの本研究者たちは発見した。しかし、一日に消費する全カロリーのパーセンテージとしては、12.7%対13.2%といったように、男性と女性に差はほとんどない。

**第5段落** 成人は20代と30代で最も多くの糖分を摂取する傾向があり、その消費量は年を取るごとに着実に減っていく。たとえば、20歳から39歳の間の男性は、平均して一日につき397カロリーの添加糖分を飲食しているのに対して、40代と50代の男性は平均して一日につき338カロリーの添加糖分を摂取しており、さらに60代以上の男性たちは一日に添加糖分を224カロリー摂取しているのだ。女性に関しては、20歳から39歳の間で275カロリーとピークを迎え、40歳から59歳の間で236カロリーまで落ち、そして60歳以上ではわずか182カロリーまでに減っていく。男女両方に対して、全カロリーに対する添加糖分の割合は、14%から11%へと着実に落ちていた。

**第6段落** アフリカ系アメリカ人は、男性14.5%、女性15.2といったように、白人(男性12.8%、女性13.2%)やメキシコ系アメリカ人(男性12.9%、女性12.6%)よりも添加糖分から多くのカロリーを摂取していた。白人とメキシコ系アメリカ人の(摂取量の)違いは、統計的に大したものではなかった、

**第7段落** さらに本研究者たちが発見したことは、貧しければ貧しいほど、ますます添加糖分が食事で果たす役割が

大きいということであった。収入が中等程度の女性が13.4%、最も収入の高い女性が11.6%であったのに比べて、最も収入の低い女性たちは糖分からカロリーの15.7%を得ていた。男性に関しては、同数値はそれぞれ14.1%、13.6%、11.5%であった。

**第8段落** アメリカの食事においては、砂糖で甘くした炭酸飲料から単体で添加糖分量を最も多く取っているのだが、食べ物からは三分二であるのに比べて、全体として飲料は大人が消費する添加糖分量のたった三分の一しか占めていない。さらに、飲料からとっている添加糖分量の58%、食べ物からとっている添加糖分量の約67%が自宅で摂取されていた。

**第9段落** 大人に関しての今回の発見と、他の研究が子供や十代に関して報告してきた内容との間にはいくらか違

いがあると研究者は述べていた。例えば、添加糖分の一日に摂取する全カロリーの割合は、黒人の子供と白人の子供では同等だが、メキシコ系アメリカ人の子供では低かった。そして、どの収入の水準の子供や十代でも、添加糖分から一日に同じ割合のカロリーを摂取していた。

**第10段落** 果物や牛乳に元から存在する糖分は、添加糖分には含まれない。その名が暗に示しているように、添加糖分は加工調理済み食品や加工食品の中の成分として使われている。分類をするために言うておくと、ブランシュガー、原料糖、固形コーンシロップ、麦芽水あめ、パンケーキのシロップ、フルクトース甘味料、液体フルクトース、無水結晶ブドウ糖、結晶ブドウ糖やデキストリンが含まれる。

【解説】

**1** [ア] advise O to do 「Oに～するように助言する」という語法に続ける。この不定詞に続く動詞になる候補は、limitとintakeの二つ存在するが、意味を考えると、「摂取量を制限するよう助言する」が適切であることがわかる。したがって、limit our total intake of ～「私たちの～の総摂取量を制限する」が正解。なお今回はlimit A to B「AをBに制限する」という形で使われていることが後ろに続く本文を見れば確認できる。[ケ] between A and Bが名詞を並列していることを理解し、名詞句および名詞節になるように整序する。名詞のかたまりを作れるのは語群の中を見るとwhatであるとわかるため、あとは正しく文章を作ればよい。「他の研究が～について報告していたこと」となるように、what other studies have reported about ～とするのが正しい。

**2** (ウ) not just A but (also) B 「AだけでなくBも」という構造に気づきたい。justの代わりにはonly, merely, solelyが使えることも知っておくとよい。

(カ) 空所と同一の文中、ハイフンの後にthanがあることから、比較級表現が必要であることを見抜く。添加糖分のカロリーに対する摂取量がアフリカ系アメリカ人は男性が14.5%、女性が15.2%であるのに対して、白人男性は12.9%、白人女性は12.6%であるという数値から考えて、

「アフリカ系アメリカ人の方が白人よりも多くのカロリーを添加糖分から摂取している」となるように、moreを入れるのが正しい。

(ク) 大人は消費する糖分のうちの3分の2を食べ物から摂取していることから、飲み物からは3分の1摂取していることがわかる。したがって、one-thirdが正解。

**3** (エ) 一日に摂取する総カロリーに対する糖分の割合は、男性が12.7%で女性が13.2%であるという内容から、その差は「同等；互角」と言える。したがってこの意味を表す形容詞のevenを選ぶ。

(オ) 一日における女性の添加糖分の摂取カロリー量の年代別の推移を説明している箇所である。「20～39歳で275カロリー、40～59歳で236カロリー、60歳以上で182カロリー」という推移である。したがって、「20～39歳でピークを迎える」となるように、動詞peakを選ぶ。なお、主語がthe daily consumptionと単数であることから三単現一致を忘れないようにしたい。

(キ) 空所の前の文章展開を見ると、全カロリーに対する添加糖分の割合が白人男性で12.8%、白人女性12.6%、メキシコ系アメリカ人は男性が12.9%、女性が12.6%と、ほぼ差がないことがわかる。したがって、「差は統計的に大したことではない」となるように、significantを選ぶ。

(コ) for the sake of ~で「~の(利益の)ために」というイディオム。

4 **It should come as no surprise** 形式主語構文の it が先行しておりそれに続く真主語が that 以降である。come as no

surprise で「驚きとしてやってこないだろう」→「驚くべきことではないだろう；不思議なことではない」という意味になる。

IV. 【解答】

(1) ア ○ イ × ウ ○ エ × オ × カ × キ ○ ク × (2) is

【全訳】

第 1 段落 アメリカの新たな保険医療改革法では、全ての人が健康保険に加入していることが求められるだろう。保険に入っていないから医師の診断を受けに行くのを避ける人々は、些細な病気に対しては家庭医の元を訪れる可能性が高くなるだろう。しかし、家庭医は不足しており、先進看護訓練を受けてきた診療看護師がこの不足を補おうとしている。

第 2 段落 レスリー・ヘンリーとモーラ・コンスタンスはアーリントン無料診療所の診療看護師。ヘンリーはアレルギー持ちの女性を診察している。「おや、あなたは間違いなくアレルギーを持ってそうですね。」と彼女は言った。

第 3 段落 診療看護師は先進看護教育を完了した登録済みの看護師。「診療看護師は医者とかなりの程度同じ機能を持っている。体の様々な部位を見る授業を私たちは受けません。同じことを医者もしているでしょう。」とコンスタンスは言う。

第 4 段落 診療看護師は風邪のようなありふれた病気や、糖尿病や心臓病のような慢性病の診断法と処置法を学ぶ。「私たちは患者の医学的問題を評価し、処置計画を見つけ出します。私たちは処方箋も書きますよ。」とヘンリーは言う。

第 5 段落 数年の間、医師のあまりいない地域では特に、診療看護師たちは国の健康ケアにおいてますます大きな役割を果たすようになってきている。

第 6 段落 ジャン・タワーズはアメリカ診療看護師アカデミーの計画局長。「高齢者の介護の担い手という観点でも、不足しているのだ。看護プログラムの中で私たちが掲げる共同保険計画のため、診療看護師はこのような人々と、こ

のような環境で働くための準備が特にできているのだ。」と彼女は言う。

第 7 段落 州が診療看護師を規制しており、彼らができることに関しては法によってさまざまなのだ。たいていの診療看護師は医師によって監督されている。

第 8 段落 家庭医の不足と相まって、28 の州が診療看護師の権限を拡張しようとしている。これには、医師の監督なしで医療実践できることや、モルヒネのような痛みに対する麻酔薬を処方することが含まれている。「家庭医が必要になってくると、診療看護師は資格を有した治療従事者が、目下十分に活用されていないことを考慮に入れると、特にそう。そして、診療看護師は、医療従事者を万人に行き渡らせるための解決策になると私たちが考えているものの一部になりうるのだ。」と彼女は言う。

第 9 段落 米国医師会(アメリカでもっとも大きな医師会)の主張は、医師不足だからと言って看護師に任せる理由にはならないということだ。診療看護師にもっと権限を持たせたら、医療の質が低下するだろうと、同医師会は述べている。その代わりに、もっと多くの家庭医を訓練すべきだと述べている。

第 10 段落 しかし、家庭医は専門医と比べて稼ぎが少ないから、これを実現するのは難しいかもしれない。ウインストン・リウー医師はヴァージニア州フェアファックスの家庭医。診療看護師の有能さに関する研究は小さすぎて決定的なものになりえない、と彼は言う。「まだもっと評価を行う必要があるだろう。それはとても重要な技術ことは明らかだが、家庭医がしていることを本当に全て内包しているとは思わない。」と彼は言う。

第11段落 研究によると、診療看護師は患者に耳を傾けるのが医者より上手であり、患者により専門的な処置を受けるよういつ紹介するべきかに関してうまく決断ができるらしい。

第12段落 レスリー・ヘンリーは、診療看護師がもっと自立を手にするのを見たいと言う。「診療看護師は良い処置を施し、おそらくそのことを研究が立証しているでしょう。」

【解説】

(1) ア：「診療看護師になりたければ、医師と同じ授業をいくつか受ける必要がある。」 第3段落第3文の内容に一致。

イ：「診療看護師は治療計画を提案することはできるが、処方箋を書く権利を持たない。」 第4段落第2・3文の内容に一致しない。本文では、レスリー・ヘンリーのセリフの中で **we** という主語で書かれているところは診療看護師のことを指しており、治療計画を提案することも、処方箋を書くこともできるとある。

ウ：「診療看護師は専門のプログラムを終えているので、高齢者のケアをする準備ができています。」 第6段落第3文の内容に一致。

エ：「州ごとに診療看護師の権限に関する法律が異なるが、そのたいていは医師の監督の下でなければ医療行為を行える。」 第8段落第1・2文の内容に一致しない。本文では、法を改定しようとしている州が28もあると書いており、その内容が診療看護師の権限の拡大である。この権限の拡大の中に、医師の監督なしに医療行為をすることが含まれるが、これはあくまで法を改定しようとしている段階での話であり、まだ実現していることではない。

オ：「アメリカ医学会は診療看護師にさらなる権限を与えることに反対している。というのも、もしそうなれば家庭医が仕事を失うことになるからだ。」 第9段落第1・2文の内容に一致しない。アメリカ医学会が診療看護師の権限

さらに、診療看護師は医師よりもはるかに給料が少ないのだが、それは私たちが手ごろなケアを提供できるということを示しているのでしょう。」と彼女は言う。

第13段落 彼女は人助けをするのは楽しいと言う。彼女が失意しているのは、医者に対してと同じように、患者の数が多すぎて彼らと過ごす十分な時間がないということだ。

の拡大に難色を示しているのは確かだが、その理由は医療の質の低下を憂いでのことであるため、理由の部分が本文と一致していないのである。

カ：「診療看護師は家庭医と同じ権限を持つべきだと、ウインストン・リウー医師は思っている。」 第10段落第3～5文の内容に一致しない。彼の意見は、診療看護師の権限を拡大させる件については、研究が小さすぎて判断が難しいが、医師の代わりをできるとは思わないということである。

キ：「研究によると、ある側面においては診療看護師の方が医師よりもうまくできる部分がある。」 第11段落の内容に一致。患者に耳を傾けることや、いつ患者を専門的なケアに向かわせるべきかに関する決断が、本文で述べられていた診療看護師の方が医師よりも長けている部分である。

ク：「患者に費やす時間の割には十分な給料が支払われていないとレスリー・ヘンリーは主張している。」 第13段落の内容に一致しない。彼女の主張は、患者の数が多すぎて、それぞれの患者と十分に接する時間がないということである。

(2) 「～に対する解決策だと私たちが考えること」となるように、**what we think is a solution to** ～とする。これは、**what is a solution to** ～という関係代名詞節に、**we think** が挿入された連鎖関係代名詞節を形成している。